# 数研『改訂版 高等学校 情報Ⅰ』（情Ⅰ/104-901）観点別特色

## **（１）内容**

情報の科学的理解，情報モラル・セキュリティ，プログラミング，データの分析が特に重視されており，実践的な知識と能力が養える教科書である。

音や画像のデジタル表現・パケット通信のしくみなど，表面的な説明ではなく，原理や理由が論理的にていねいに記述されており，知識がしっかりと身につくようになっている。

実践力を養うときに必要なパソコンの操作やアプリケーションの使い方に関する資料が掲載され，パソコンの使用経験の異なる生徒にも十分に対応できるようになっている。

## **（２）構成・分量**

第1編において問題解決および情報モラル・セキュリティの内容を扱い，以降の学習に必須となる知識および考え方を身につけられるようにしている。

やや高度な内容を「StepUp」という要素で区別してあるため，学習進度や理解度に応じて，取捨選択して授業をしやすくなっている。

実習は，本文中に短時間でこなせる簡単なものを適宜扱っている。また，より時間のかかる実習は巻末にまとめてあり，取捨選択がしやすく，授業計画が立てやすい。

巻末には，ソフトウェアの使い方，著作権に関する資料，プログラミングに関する資料など，豊富な資料が簡潔にまとめられており，授業の資料として使いやすくなっている。

## **（３）表記・表現及び使用上の便宜**

キャリア教育との関連および他教科との関連が深い内容にマークをつけることで，情報という教科が社会および幅広い分野との関わりがあることを意識させている。

パソコンを使う実習，パソコンを使わない実習を，「実習」と「Exercise」というタイトルとして一目で区別できるようになっているので，生徒も予習や準備がしやすい。

問，例題，編末問題，総合問題と，問題も豊富で知識の整理に役立つ。また，「読解チェック」という問題では，教科書の文章を注意深く読めているかを簡単に確認できる。

プログラミングの内容では，地域や学校の実態および生徒の状況に応じて，例として扱うプログラミング言語を複数掲載している（Python・表計算マクロ）。

話しあいに活用できる要素の「話しあってみよう」や，問いかけに活用できる要素の「Think」を適宜用意し，主体的・対話的で深い学びを促している。

側注には，本文に関連した少し踏み込んだ解説が豊富に入っている。また，側注の記事の「NOTE（類語）」では，似た名前の用語をまとめて学習できるようになっている。

各編冒頭の「中学とのつながり」，各章末の「思いだしてみよう」，各編末の「まとめ」などの要素で，知識の定着・整理に役立てられるようになっている。

図版，表，写真が豊富で，かつ効果的に使われており，生徒の興味・関心を喚起し，視覚的・直感的な理解ができるようになっている。

## **（４）その他**

情報に関する普遍的な内容を重視しているが，生成AIやメタバースといった新しい話題もしっかり扱っており，非常にバランスがとれた教科書である。

生徒に身近な例やイラストなどを豊富に用いて，親しみやすく，理解が容易になるように工夫されている。たとえば，動画の説明のため，頁の右下がパラパラ漫画になっている。

全体を通して，情報通信技術の表面的な使い方だけでなく，体系立てた科学的な理解を重視し，問題の本質を見極めるための知識と実践力を身につける教科書になっている。